

弓削商船高専 修学支援ガイドブック

初年次教育支援室 編



学科_____学籍番号_____氏名_____

弓削商船高等専門学校

目 次

1	修学支援ガイドブックの目的と使い方・・・・・・・・・・	1
(1)	目的と使い方・・・・・・・・・・	1
(2)	学生便覧とのちがい・・・・・・・・・・	1
2	高等専門学校について知ろう！！・・・・・・・・・・	2
(1)	高等専門学校とは？・・・・・・・・・・	2
(2)	学生と生徒の違い・・・・・・・・・・	4
(3)	学年制と単位制・・・・・・・・・・	6
(4)	履修単位と学修単位・・・・・・・・・・	8
(5)	定期試験について・・・・・・・・・・	10
(6)	履修（出欠）と修得（学年成績）・・・・・・・・・・	12
(7)	進級の基準・・・・・・・・・・	14
(8)	原級留置（留年）・・・・・・・・・・	16
3	弓削商船高専での学びについて知ろう！！	
(1)	校訓、教育方針、教育目標	
(2)	一般科目と専門科目（くさび形教育含む）	
(3)	弓削丸実習	
(4)	授業外の学習時間（初年次教育の時間，補講の時間）	
(5)	クラブ活動の薦め	
(6)	懲戒について	
4	学習方法について知ろう！！	
(1)	授業の受け方	
(2)	授業を休む場合	
(3)	シラバスの活用方法	
(4)	オフィス・アワーの活用方法	
(5)	図書館の活用方法	
(6)	レポートの書き方	

- (7) 資格試験
- (8) 英語の学習方法
- (9) 数学の学習方法
- (10) 読書の習慣

5 情報システムの利用方法について知ろう！！

- (1) 情報モラル
- (2) 校内ネットワークの利用方法

6 学生生活で悩みごとができれば・・・

- (1) 学生相談室とカウンセリング（相談の体制など）
- (2) 進路への悩み、進路変更など(含む転学科)
- (3) 「いじめ」、「ハラスメント（いやがらせ）」など

7 その他、修学上の参考となれば・・・

- (1) 携帯電話のこと
- (2) 5つの「S」のこと
- (3) 4つの「ザイ」のこと
- (4) モチベーションのこと



1 修学支援ガイドブックの目的と使い方

(1) 目的と使い方

このガイドブックは、高専の教育プログラムの特徴、修学支援のための施設・設備や人的サポートなどの活用、専門的な用語の意味等について解説し、初年次の修学支援に寄与することを目的としている。

このガイドブックは、次のような使い方を例示するが、いろいろ工夫して活用してもらえると幸いである。

- ① 初年次合同ガイダンスでの説明資料としての活用
- ② 初年次ホームルームでの説明資料としての活用
- ③ 「学生便覧」を読む時の参考資料として活用

(2) 学生便覧とのちがい

このガイドブックは、「学生便覧」を補完する役割とともに、特に高専での勉強の仕方に慣れていない初年次学生に対して修学支援のための助言（アドバイス）的役割をするためのもので、具体的な内容を記述したものではなく、当該内容等については「学生便覧」を参照するように心がけてもらいたい。



2 高等専門学校について知ろう！！

(1) 高等専門学校とは？

学校教育法では、高等専門学校（以下「高専」という）は「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成すること」を目的とする学校である。

高専は、後期中等教育段階（高等学校段階）を包含する、5年制（商船に関する学科は5年6か月）の高等教育機関と位置付けられている。また、高専は、中学校卒業程度を入学資格とし、所定の修業年限の課程のもと、工学・技術系の専門教育を施すこと（一部には文系に近い学科を持つ高専もあるが、現状の多くの高専の学科は工学・技術系分野が中心である）によって、実践的技術者を養成することを目的にした教育機関である。

学年進級制を基本に、一般科目と専門科目をくさび形に配置し、1年次より徐々に専門科目が増えていく教育課程に特徴がある。

旧文部省・旧国立高等専門学校協会は、高度経済成長期に7年間を要する高校段階から大学工学部レベルの教育を、重複なく5年間で完成する一貫教育を行う中堅技術者の養成を標榜し、社会ニーズもあって高専制度が設けられた経緯がある。

後期中等教育機関である高校の生徒と同年代の学生（1―3年次）が在籍しているが、高専内部で前期課程、後期課程等と分離せず、高校年齢の学生も含めて、高等教育を受けているものと法的にはみなされている。卒業生は「準学士」と称することができる。

就職希望者に対する求人倍率は常に高校・大学を大きく上回り、就職率はほぼ100%となっている。一方、学生の進学ニーズにも応えるため、すべての高専に2年制の専攻科が設置されている。専攻科の修了生は、大学評価・学位授与機構の審査に合格することにより、「学士」の学位を取得できる。高専内部では、便宜的に、5年制の課程を本科もしくは準学士課程、専攻科を専攻科もしくは学士課程と称している。本科卒業後は大学編入学、専攻科修了後は大学院進学の道も開かれている。

高専における標準的な総授業時間数は、高校と短大を併せた時間数を大幅に上回り、かつ大学工学部において履修する専門科目の総時間数を若干上回っている。その一方で、一般教育・教養教育にかかわる科目の授業時間数は、高校と短大を併せた時間数を若干下回る。高専の教育課程は、他の教育機関と比して、専門科目に厚く、一般科目に薄いのが特徴である。

高専は、国・公・私立全体で57校あり、そのうち公立が3校、私立が3校である。未設置あるいは既存校の4年制大学への転換により、高専が設置されていないのは埼玉県、神奈川県、山梨県、滋賀県、佐賀県のみとなる。校名の英語表記は、これまで単科大学や短期大学に相当する「College」を使用してきたが、高専機構は平成26年から英語表記を変更し、高専機構はNational Institute of Technologyと呼称し、本校はNational Institute of Technology, Yuge Collegeとなった。

（２）学生と生徒の違い

高専に在学している者は「学生」といわれている。一般に、「学生」とは高等教育機関（高専、短大、大学、大学院）や専門（専修）学校に在籍している者の呼称となっている。感覚的には、年齢の高い就学者に対しての呼称のようなイメージもあるが、高専生は16歳年齢でも「学生」と呼び、同年齢比でいえばわずか2%である。残りの98%が高校生として「生徒」といわれていることになり、高専の初年次学生は「学生」といわれる呼称に違和感を覚えるかも知れない。

「生徒」は中等教育機関（中学校、高等学校）の中学生や高校生に対する呼称として用いられている。また、例えば個人教授の習い事（ピアノや習字など）の場合には、年齢にかかわらず「生徒」と呼ぶことが多い。伝統的な稽古ごと（華道や茶道、武道など）では「弟子」という呼称が使われる場合も多い。

初等教育機関（小学校）の小学生は「児童」と呼称されることが多いが、児童福祉法には以下のように規定されている。

第四条 この法律で、児童とは、満十八歳に満たない者をいい、児童を左のように分ける。

- 一 乳児 満一歳に満たない者
- 二 幼児 満一歳から、小学校就学の始期に達するまでの者
- 三 少年 小学校就学の始期から、満十八歳に達するまでの者

つまり、「児童」とは18歳未満のものの呼称であるが、中学生や高校生には「生徒」、高専生や大学生等には「学生」、小学生より小さい子にはそれぞれ「乳児」や「幼児」などの呼称が一般に用いられているので、小学生を指して「児童」と呼ぶことが一般的になっている。

「学生」と「生徒」の違いの本質は一体何か。端的に表現すると、「教えてもらうのが生徒、自ら学習・研究するのが学生」ということである。

中等教育機関（中学校、高等学校）で教壇に立つ者は、教員免許を持つ必要があるが、高等教育機関（高専、短大、大学等）ではその必要はない。

日本において高等教育とは、狭義には、学校教育法第1条に定められる学校（1条校）のうち、後期中等教育（高等学校）に続く上位の学校種で実施される教育を意味する。具体的には、大学・短期大学・高等専門学校で行われる教育である。広義には、国家が国民に対して保証すべき教育（学校教育）のうち、基礎的教育（初等教育：小学校など、中等教育：中学校・高等学校・中等教育学校など）に続く上位の教育であって、一般教育と専門教育の双方を充分に行うものを意味する。高等教育を「成人年齢に達した若者世代に対する学校教育」ということもある。「専修学校の専門課程」（いわゆる専門学校）のうち、大学に編入学できる課程（修了者に専門士または高度専門士が付与される課程）で行われる教育も高等教育に分類されることがある。

(3) 学年制と単位制

学年制とは、各学年での教育課程の修了を繰り返すことによって学習していく方式のことであり、単位制とは、授業科目を単位と呼ばれる学習時間数に区分して修得していく方式のことである。

高専は、本科が「学年進級制」、専攻科は「単位制」となっているところが多いが、本科でも高学年で「単位制」を採用するところも増えている。

「学年進級制」は、「学年制」と「単位制」を併用した制度とみることができる。当該学年に配当されている科目にすべて合格する（単位を修得する）ことが次学年進級要件となっている制度をいう。進級できない場合には「原級留置（留年）」となり、同一学年のすべての科目を再履修することになる。

「単位制」は、所定の単位数を修得することが卒業（修了）の要件となっている制度で、基本的に学年という概念は意味がなく、便宜上学年を設けて科目配当は行っているが、「原級留置（留年）」という概念はなく、必要な単位数が修得できるまで卒業が延びるだけである。「単位制」は「通年単位制」と「セメスター単位制」に分かれる。「通年単位制」は1年間の授業科目の学習成果によって単位を認定する制度であり、「セメスター単位制」は半年間の期ごと（前期、後期）の授業科目の学習成果によって単位を認定する制度である。「通年単位制」は、高等学校で主に採用され、高専も低学年配当科目を中心に「通年単位制」となっている。「セメスター単位制」は大学や短期大学（含む高専の専攻科）で採用されている。

(4) 履修単位と学修単位

履修単位は、「30単位時間（1単位時間は50分を標準とする）の履修を1単位として計算する単位」のことをいう。高等専門学校設置基準第17条第3項で、「各授業科目の単位数は、三十単位時間（一単位時間は、標準五十分とする）の履修を一単位として計算するものとする」と規定されているのが根拠となっており、履修単位のことを「高専単位」と呼ぶこともある。

学修単位は、「45時間（1時間は60分だが、高専では1単位時間は50分を標準としているので、学修単位についても1時間は50分を標準としている）の学修をもって1単位として計算する単位」のことをいう。学修単位は、平成17年中央教育審議会の答申を受けた高等専門学校設置基準改正で、高専には平成18年度から導入された。

高等専門学校設置基準には、学修単位について、以下のように規定されている。

第17条第4項

「前項の規定にかかわらず、高等専門学校が定める授業科目については、一単位の授業科目を四十五時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算することができる。

- 一 講義及び演習については、十五時間から三十時間までの範囲で高等専門学校が定める時間の授業をもって一単位とする。
- 二 実験、実習及び実技については、三十時間から四十五時間までの範囲で高等専門学校が定める時間の授業をもって一単位とする。
- 三 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前二号に規定する基準を考慮して高等専門学校が定める時間の授業をもって一単位とする。」

第17条第5項

「前項の規定により計算することのできる授業科目の単位数の合計数は、六十単位を超えないものとする。」

第17条第6項

「前三項の規定にかかわらず、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位の修得を認定することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。」

学修単位は、法令上大学設置基準に定める単位と全く同じものであるので、学修単位のことを「大学単位」と呼ぶこともある。

履修単位の「履修」とは、授業に参加して学習する意味であり、学修単位の「学修」とは、授業に参加して学習するだけでなく、自学自習（予習、復習）の時間も含んだ概念である。また、大学単位と全く同じ内容である学修単位のことを、あえて学修単位と違って表現を区別しているのは、高専に適用される単位であることや授業科目の単位数に60単位までと制約が設けられていること、あるいは高専では4年次以上の高学年科目へ導入さ

(5) 定期試験について

高専は1年間の学期の区切りを2期（前期と後期）に分けている。半期ごとに単位を認定するという意味での「セメスター単位制」とは違うが、高専ではこのような学期の区切り方をとらえて「セメスター制」といつている場合が多い。

「定期試験」は、各期の終わり頃に実施される期末試験のことを意味しているが、各期の中間頃に実施される中間試験も含めた意味で定期的に実施される試験という意味で用いる場合もある。規則上の意味づけは前者である。定期的な試験としては、通年の授業では4回の試験（前期中間試験、前期期末試験（前期定期試験）、後期中間試験、後期期末試験（後期定期試験））が実施される。本科の授業科目の一部には半期で修了するものもある。このような科目は前期もしくは後期の中間試験と期末試験（定期試験）の2回しかない。中間試験については、試験を実施しない場合もある。

本校では、「セメスター制」に移行（前期、後期の2期制に変更はないが、夏休み時期を8月10日前後から9月末頃までとした大学方式に合わせるための移行）した平成25年度から試験期間を5日間としている。試験は1時間目を自習時間として2時間目から行うようにしているが、午前中の時間内で納まらない場合には午後からの試験時間も設けている。

試験時間割の発表がなされる試験開始日の10日前から（試験発表期間中）は、試験勉強に集中させるため、やむを得ない理由等がない限り、原則として課外活動（部活動）を中止させている。

成績は、期末試験（定期試験）の成績及び中間試験の成績ばかりでなく、平素の成績や学習態度、出席の状況等を総合して100点法で評価される。各科目の成績の評価方法についてはシラバスに記載されているので参照されたい。

「弓削商船高等専門学校学業成績の評価並びに進級・特別進級及び卒業の認定に関する規則（いわゆる進級規則）」（内容は「学生便覧」を参照）に規定されている試験の種類は以下のとおり。

- ① 定期試験・・・各学期末ごとに1回実施される試験（前期期末試験、後期期末試験のこと）
- ② 中間試験・・・科目担当教員が必要と認めた科目について、各学期の中間において実施することができる試験（前期中間試験、後期中間試験のこと）
- ③ 席上課程修了試験
商船学科5年生の学年末に実施する試験（この後、商船学科の学生は大型練習船実習の後期実習（6ヶ月）に参加して卒業を迎えるため、座学最後の試験となる）
- ④ 追試験・・・次の各号に掲げる事由により、定期試験又は中間試験を受けることができなかった学生は、当該未受験科目に限り1回受けること

(7) 進級の基準

「進級」とは、当該学年の課程を修了して、次の学年に進むことをいう。

当該学年の課程の修了ができなかった場合には、「原級留置(留年)」となり、再び当該学年の全科目について履修しなければならない(再履修)。

本校では、当該学年の課程を修了して「進級」するのを原則としながらも、極少数の科目が合格できないために、留年してあらためて全科目を再履修しなければならないことについて、その弊害を多面的に検討し、セーフティネットとして「特別進級」の制度を設けている。

「進級」の基準については、「学生便覧」に掲載されている「弓削商船高等専門学校学業成績の評価並びに進級・特別進級及び卒業の認定に関する規則」による。

「進級」の認定は、次の要件を満たした学生について行う。

- ① 1年間の出席日数が、出席すべき日数(授業(特別活動、講演等を含む。)、学校行事、特別日課等の合計とし、出席停止及び忌引は含まない。)の3分の2以上であること
- ② 当該学年において以下に示す所定の進級単位数を修得していること

所定の進級単位数								
(数字は単位数)								
授業科目		1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	合計	
一般科目	必修科目	商船学科	24	23	17	5	7	76
		電子機械工学科	24	23	17	7	6	77
		情報工学科	24	23	17	7	6	77
		各学科共通	芸術は2単位選択					2
専門科目	必修科目	商船学科	7	10	16	11	27	71
		電子機械工学科	6	9	15	21	22	73
		情報工学科	6	9	15	26	15	71
	選択科目	商船学科	0	0	0	0	1	1
		電子機械工学科	0	0	0	2以上	9以上	15以上
	情報工学科	17以上					17以上	

- ③ 全学年の未修得科目がないこと
- ④ 特別活動を履修していること

「特別進級」の認定は、次の要件を満たした学生について行う。

- ① その学年で必要な全科目を履修していること
- ② 特別活動を履修していること
- ③ 当該学年において以下に示す科目を修得していること

特別進級に伴い修得しなければならない科目		
	学年	科目名
商船学科	1年	該当科目なし
	2年	実験実習1[2単位]
	3年	実験実習2[2単位]
電子機械工学科	1年	工作実習1[2単位]
	2年	工作実習2[2単位]
	3年	工作実習3[2単位]
	4年	工学実験1[3単位]
情報工学科	1年	情報工学実験1[3単位]
	2年	情報工学実験2[3単位]
	3年	情報工学実験3[3単位]
	4年	情報工学実験4[3単位]

- ④ 1年間の出席日数が、出席すべき日数の3分の2以上であること
 ⑤ 当該学年の未修得科目数及び未修得単位数が以下に示す数以下であること

特別進級認定のための未修得科目数の上限					
学科	区分	1学年	2学年	3学年	4学年
商船学科	未修得科目数	3	3	3	3
	未修得単位数	7	7	7	7
電子機械工学科	未修得科目数	3	3	3	4
情報工学科	未修得単位数	7	7	7	7

- ⑥ 前学年の未修得科目がないこと

「特別進級」は、次学年に進級できる点では「進級」と何らかわるものではない。ただし、次学年の夏季休業までに3回に限って実施される「追認試験」に合格しなければ、進級した学年で原級留置（留年）となる。

(8) 原級留置(留年)

「原級留置(留年)」(以下、留年という)は、「進級」もしくは「特別進級」の認定がされなかった学生が該当する。

留年した学生は、当該学年の全科目を再履修しなければならない。

留年の形態は以下のとおりである。

① 出席不良による留年

欠課時数が当該授業科目(特別活動を含む。)の単位時間数の3分の1を超えた場合は「履修」が認められないので、科目数に関係なく留年となる

② 成績不良による留年

1) ストレート留年

i) 学年成績において合格の科目数が当該学年の修得すべき最少科目数の2/3未満の場合は、「再試験」の受験ができないので留年となる。

ii) 以下に示す再試験を行わない科目が学年成績で不合格の場合にも「再試験」が受験できないので留年となる。

再試験を行わない科目			
学科	学年	科目名	
商船学科	1年	体育(2単位)	該当科目なし
	2年	体育(3単位)	実験実習1(2単位)
	3年	体育(2単位)	実験実習2(2単位)
	4年(航海コース)	体育(1単位)	該当科目なし
	4年(機関コース)	体育(1単位)	該当科目なし
電子機械工学科	1年	体育(2単位)	工作実習1(2単位)
	2年	体育(3単位)	工作実習2(2単位)
	3年	体育(2単位)	工作実習3(2単位)
	4年	体育(1単位)	工学実験1(3単位)
情報工学科	1年	体育(2単位)	情報工学実験1(3単位)
	2年	体育(3単位)	情報工学実験2(3単位)
	3年	体育(2単位)	情報工学実験3(3単位)
	4年	体育(1単位)	情報工学実験4(3単位)

2) 再試験不合格による留年

再試験不合格科目数もしくは単位数が、特別進級認定要件となる科目数を超過してしまった場合には、特別進級できないので留年となる。

出席不良や成績不良により、進級認定会議で進級が認められなかった学生は留年となるが、留年は2回続けてできない。この場合は「除籍」となる。

本校では、前期中間試験、前期期末試験、後期中間試験の成績通知時に、欠課時数や欠点科目数が所定の基準以上の学生について成績通知とともに保護者に「出席不良通知」もしくは「成績不良通知」、あるいはその両方を同封して送っている。

3 弓削商船高専での学びについて知ろう！！

(1) 校訓、教育方針、教育目標

弓削商船高専の「校訓」は以下のとおりである。

「みなぎる気力と、たゆまぬ努力で、めざそう、悔いなき学生生活」

『新版 現代学校教育大事典』によれば、「校訓」には以下のような4つの特徴があるとされる。

- ① 学校関係者が教育に向かう意識を一方向に向け、統一を図る
- ② 端的な表現で児童・生徒への浸透を図る
- ③ 学校の核として長期間生かされる
- ④ 学校から学級へ下ろされる性質を持つため、浸透性が弱い

学校教育法には、高等専門学校としての目的として、「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成すること」が規定されている。これを受けて、本校でも具体的に学校として養成すべき人材像を教育方針として以下のとおり定めている。

- 1) 「自然科学および専門技術の基礎力を身につけ、高度化かつ多様化してゆく科学技術に柔軟に対応できる人材の育成」
- 2) 「身の回りの諸現象、特に海をとりまく自然・文化・歴史に好奇心を抱き、多角的に考えたり調べたりできる、独創力のある人材の育成」
- 3) 「日本および世界の文化や社会に関心をもち、国際的視野でものがみられ、しかも人間として、技術者として高い倫理観をもった人材の育成」

教育方針とは、教育によって目指す方向、教育することで育成していく人材の方向性の意味である。

また、各学科では、本校の教育方針に従って、以下の教育目標を定めている。

○教養教育

「幅広い視野に立った総合的な判断能力、斬新な創造力を備えた実践的技術者育成のための基礎的能力の涵養と教養の育成」

○商船学科

「船員教育を基盤にした海事総合科学を身につけた技術者の育成」

○電子機械工学科

「ものづくりのできる実践的な技術者—計画・設計から生産・保守運用までできる技術者—の育成」

○情報工学科

「情報リテラシー、情報工学の知識に加え、問題分析、解決能力を備えたシステム技術者の育成」

(2) 一般科目と専門科目（くさび形教育含む）

高専の教育の大きな特徴の一つに、「くさび形教育」が挙げられる。

「くさび形教育」とは、入学後の早い段階から一般教育とともに専門教育を取り入れ、専門教育のウエイトを学年の進行とともに高めていくカリキュラム構成や教育方法のことをいう。

高専は、その60%以上の学生が高専を卒業して就職するような傾向にあるため、早期から職業意識や実践的教育として実習、実験、演習、インターンシップ(職業体験学習)など講義以外の授業方式も多く取り入れている。

「くさび形教育」も上記のような職業教育の中の工夫の一つといえる。

本校の一般科目は、現代社会に通用する技術者育成の基盤として幅広い基礎・教養科目の教育を担っており、人文社会、自然科学、語学、保健体育、芸術など多岐にわたる分野の授業を通して、柔軟な思考力や、高い倫理観、国際性、未来に目を向けた創造力などを養っていくことを目的としている。専門科目との関連から、5年間一貫教育のなかで、くさび型にカリキュラムが編成されており、学習内容は、基礎学力の定着から専門分野に対応できる応用力・実践力養成へと段階的に組まれている。

本校の一般科目と専門科目の学年配当単位数は以下のとおり。

一般科目と専門科目の学年配当単位数(くさび形教育)		(数字は単位数)						
授業科目		1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	合計	
一般科目	必修科目	商船学科	26	23	17	5	7	76
		電子機械工学科	26	23	17	7	6	77
		情報工学科	26	23	17	7	6	77
専門科目	必修科目	商船学科	7	10	16	11	27	71
		電子機械工学科	6	9	15	21	22	73
		情報工学科	6	9	15	26	15	71
	選択科目	商船学科	0	0	0	0	1	1
		電子機械工学科	0	0	0	6	13	15以上
		情報工学科	1	2	1	2	19	17以上

※電子機械工学科は、4年次において2単位以上、選択科目を修得すること。

(3) 弓削丸実習

本校には、校内練習船「弓削丸(240トン)」がある。

校内練習船「弓削丸」は、商船学科の教育設備としての位置づけであるが、すべての学科で授業に活用している。

商船学科では、校内練習船実習(集中講義形式)の単位が各学年に1単位ずつ、合計5単位配当されている。その他に、実験実習1(2年生)、実験実習2(3年生)や航海学実験(4年航海コース)、工学実験(4年機関コース)等の授業の中でも活用されている。従って、1年生から5年生まで各学年で1回以上の弓削丸実習が行われている。

電子機械工学科では、1年生の工作実習1、3年生の工作実習3の一つのテーマとして、弓削丸実習が取り入れられている。また、5年生の選択科目である特別講義4でも弓削丸実習が選択できるようになっている。

情報工学科では、選択科目ではあるが、2年生の海事工学演習1、4年生の海事工学演習2で弓削丸実習が取り入れられている。

本校の弓削丸を活用した授業・実習等を以下に示す。

弓削丸を活用した授業・実習等										
学科名	1年		2年		3年		4年		5年	
	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数
商船学科	校内練習船実習	1	校内練習船実習	1	校内練習船実習	1	校内練習船実習	1	校内練習船実習	1
			実験実習1	2	実験実習2	2	航海学実験(N)	3		
							工学実験(E)	3		
電子機械工学科	工作実習1	2			工作実習3	2			特別講義4	1
情報工学科			海事工学演習1	1			海事工学演習2	1		

(4) 授業外の学習時間（初年次教育の時間、補講の時間）

平成22年度から適用されているカリキュラムでは、1年生の毎週月曜日及び金曜日の7時間目に「初年次教育」の時間が配置されている。2年生以上では「補講」と表示されている。

当該時間は、必修や選択等の科目単位を取得するための授業時間としての位置づけとはなっていない。「特別活動（LHR）」は、1年生から3年生まで1単位時間配当され、履修が義務づけられているが、上記の時間については履修義務があるわけではない。

「初年次教育」の時間が設けられるのと併せて、平成23年度には初年次教育の充実を図る目的で、「初年次教育支援室」が組織として設置された。初年次教育支援室長、初年次教育支援副室長、3名の初年次教育支援員（1年生の副担任に相当する）、数学担当教員、英語担当教員、1年生の各クラスの担任教員が構成員となっている。

「初年次教育支援室」は以下の業務を行っている。

- (1) 初年次教育支援の実施及び学習相談に関する事項
- (2) 入学予定者の準備学習の実施に関する事項
- (3) 初年次教育支援の企画・開発に関する事項
- (4) その他初年次教育の推進に関する事項

初年次学生、特に1年生は中学校から高専という、中学校とは異なる教育環境に戸惑うことが多い。高専という教育環境に早くなじめるようにすることや、教科の中でも特に学習につまずくことが多い「数学」や「英語」の学習についての支援、合同ガイダンス、あるいは各学科のキャリア導入学習（職業教育導入学習）、修学上の悩み相談等に対応するために、「初年次教育」という時間を週2時間設けている。

2年生以上では「補講」という時間となっている。これは、純粋に教科の補講を行ったり、資格試験の補講を行ったり、柔軟に対応できる時間としての活用を行っている。

平成24年度の初年次教育支援項目と実施日等を参考までに以下に示す。

実施日	項目	担当	内容
(3月)	入学準備（春季課題学習）	英、数、国教員	英数国の教員に問題作成を依頼、配布
5/11	初年次教育支援室第1回打ち合わせ	初年次教育支援室員	今年度の活動方針と年間計画
4/11, 4/12	新入生オリエンテーション	初年次教育支援室員	学生主事と協力支援
4/13, 4/16	英数国3教科校内学力試験	初年次教育支援室英語数学担当教員	結果を分析、学級担任にフィードバック
5/10	合同ホームルーム（高専生活について、学習方法、悩みの相談等）	初年次教育支援室員	教務主事、学生主事、カウンセラー講話
5/18, 5/21, 5/25, 5/28, 6/1, 6/4	前期中間試験前補習（月、金7限）	英語、数学担当教員	英語、数学の補習
9/20	学外講師による講演会	新中央工業 関 俊治氏	働くことの意義について
11/8	学外講師による講演会	愛媛県赤十字センター所長 松坂 俊光先生	命の大切さとタバコの害について
9/7, 9/10, 9/14, 9/24	前期期末試験前補習（月、金7限）	英語、数学担当教員、専攻科学生チューター	英語、数学の補習
10/3	学級担任、学生主事補との連絡会	初年次教育支援室員、学生主事・主事補	学生支援上の問題点について意見交換
11/4	芸術授業発表会（商船祭）	芸術科目教員、初年次教育支援室員	芸術科目講師の発表会支援（準備/当日/片付け）
11/16, 11/19, 11/26, 11/30	後期中間試験前補習（月、金7限）	英語、数学担当教員、専攻科学生チューター	英語、数学の補習
1/17	専攻科生講演	専攻科生	海上輸送1名、生産システム2名による講演と質疑応答
2/4, 2/8, 2/15, 2/18	後期期末試験前補習（月、金7限）	英語、数学担当教員、専攻科学生チューター	英語、数学の補習
2/19	音楽授業選択者年度末おさらい会	音楽教員、初年次教育支援室長、副室長	芸術科目講師の発表会支援
?	校歌練習		音楽講師に依頼（学級担任、支援教員）

(5) クラブ活動の薦め

1年生には運動部への加入を薦めている。もちろん文化部もあるが、基本的には掛け持ちとなってもできる限り運動部で頑張ってもらいたい。

近年、メンタル的に弱い学生が増加傾向にあり、「怒られる」、「辛いことをする」、「人間関係がうまく形成できない」などで必要以上にストレスを感じ、「引き籠もり」や「保健室登校」、あるいは「ストレス性うつ病」などの病気の原因となることがある。就職しても、短期で職を辞めてしまう、長続きしないといった悪循環につながってしまう。

勉強をしようとする、知力ばかりでなく、気力、体力も当然必要となってくる。

クラブ活動をする主な利点として、以下のことを挙げることができる。

- ① 気力、体力をつけることができる
- ② 先輩・後輩の上下関係になれる
- ③ やり遂げることで責任感の養成となる
- ④ 根気力、忍耐力がつく
- ⑤ 集団の中で協調性が養われる
- ⑥ 集中力が身につく
- ⑦ 就職時の自己PRとなる など

逆に、主な欠点として、以下のことを挙げることができる。

- ① 勉強時間や遊び時間が制約される
- ② 人間関係で疲れる（イジメなどの原因となる）場合がある

マイナス面（欠点）もあるが、それにも増して利点の方が多いので、積極的にクラブ活動をするように期待したい。

就職でもクラブ活動をしている学生に対する評価は高い傾向にある。明るく、たくましく、精神的にも強い学生にぜひ成長してもらいたい。

4 学習方法について知ろう！！

(1) 授業の受け方

一般的に言えば、興味津々で授業を聞くことができれば、まず「居眠り」をすることは無い。興味が薄れてくると「居眠り」、「手遊び」、「私語」などするようになる。

授業の受け方として、一番大切なのはモチベーション（Motivation：動機づけ、意欲）である。何のために勉強しているのかを見極め、自分の価値を高め、磨くことに意欲を示して欲しい。

知識を増やしていくことは重要である。しかし、自分の学習能力を高める方がもっと重要である。社会に出てからも勉強は続く（むしろ社会に出てからの方が勉強しなければならない）が、そこでは知識の多寡より学習能力が大事となる。高等教育では「勉強の方法、仕方」をしっかり勉強すべきである。

授業を受ける場合に心がけるべき事項は以下のとおり。

- ① 学習意欲：時間内に理解しよう、絶対に覚えよう（学ぼう）とする強い気持ち
- ② 学習態度：適度に緊張したからだの構え。どのようなスポーツにも基本姿勢があるのと同じ
- ③ 学習行為：考える習慣。ノートの取り方。復習や反復の徹底
- ④ 学習道具：教科書、その他の参考資料、ノート等忘れ物をしない

次に、ノートの取り方は大切である。ノートの目的は「記憶喚起」にある。板書されたことを単に書き写すだけであれば、それは学修行為というより単なる作業である。第一優先順位は授業であり、まず授業を聞いて理解することが最優先である。板書の書き写しは、教員が講義を止めたときか、教員の講義を聞きながら、手だけを動かしてノートに要点をメモする程度で十分である。むしろ、板書されない講義の重要部分をメモすることなどができるようになれば、「ノートの達人」となる。

また、理工系の教科では、復習として「演習問題を解くこと」が大切である。授業を理解したかどうかの確認ができ、誤った理解や理解不足であれば、演習問題の解答は正しく導けない。「演習問題を解くこと」は、学修、理解したことに誤りがないかどうかの確認作業として非常に重要である。

授業を受けることと独学との主な違いは以下のとおり。

- ① 重要な部分、大切な部分ができる
- ② 質問をすることができる
- ③ 間違った思い込みや独りよがりを排除できる

高専の1単位時間は標準50分である。時間内で理解することに心がけ、不明部分は積極的に質問（授業中ばかりでなく、授業の後でも個別に質問することは可能である）し、後回しにしないように心がけることも大切である。

(4) オフィス・アワーの活用方法

オフィス・アワー (Office hours) とは、学生からの質問や相談に応じるために、教員が必ず研究室にいる時間帯、あるいはそうした時間を定期的に設ける制度のことである。

基本的には、アポイント (予約) を入れるなど確認し、研究室で個別に対応可能である。

本校では、別に「基礎学力向上のための勉学支援」のため、毎年教員が分担しながらオフィス・アワーを設け、学生に案内している。平成26年度の例を以下に示す。

基礎学力向上のための勉学支援

低学年生の皆さんへ



“勉強が分からなくて困っている人、基礎科目について相談窓口を設けました。気楽に相談に来てください”
 “基礎・基本の勉強が将来のために大事です。しっかりと身につけましょう”
 “少しでも理解ができると一歩前進です。興味も沸きます。頑張りましょう”
 “指定以外の教員のところへも積極的に行って、わからないことを相談する勇気を持ちましょう”

- ① 英語・数学・国語を中心に、基礎学習のお手伝いをします。
- ② 教科書・プリントなど聞きたいものを持参して、相談してください。
- ③ 担当教員・指導時間は表のとおりです。
- ④ 出張・会議などで、不在の場合があります。(指導場所に貼り紙をしてお伝えします)



平成26年度

基礎学力向上のための勉学支援 (担当教員割振り表)

屋	月	火	水	木	金
12:30-13:00	向瀬	瀬瀧	猪川	二村	藤井
夕 16:10-16:40	浜中	藤本 塚本	長尾 久保	なし (大掃除)	野口

- ◇ 事前連絡は、いりません。直接、各先生の研究室を訪ねてください。
- ◇ 細かい内容や時間の変更については、直接その時間の担当の先生と話してください。
- ◇ 出張・会議などにより、不在の場合もあります。



(5) 図書館の活用方法

インターネットの普及により、図書館に足を向ける学生が少なくなっているといわれているが、ある意味ではもったいない。本当に図書館をうまく活用できれば、インターネットの世界とは違った意味で、知の世界を広げ、趣味を豊かにし、社会に出ても地域の図書館を最大限に活用できる「図書館の達人」になるのも夢ではない。

図書館の主な特徴を以下に挙げる。

① ブラウジング機能

図書館に行って、本棚を閲覧し、ながめ、気に入った本、興味を持った本を手に取り、パラパラとページをめくり、目次等をながめるだけでも意味がある。「おもしろそうだ」「つまらない」等の感想を持つことができる。また、すぐとなりと並んでいる本が、実は自分が本当に探していた本ということもあるかも知れない。インターネットで検索エンジンを使えば、言葉の意味などピンポイントで情報を得ることができるが、既に知っている「キーワード」に関する情報しか得られない。その点、図書館でブラウジングするメリットは、「全く知らない本にも出会える」ことである。パラパラと本を流し読みして、ふと心に残った言葉こそ、本があなたに語りかけてくれている言葉である。そんな本が見つければ、そのときはじめて腰を落ち着けて読んでみるのも良いのではないだろうか。

② レファレンスサービス機能

図書館には図書館のエキスパートである「司書」資格を持つ担当者がいる。調べ物や探し物があれば、「相談サービス」など利用し、担当窓口で聞いてみることも可能である。参考になる書籍や、ネットでの情報まで多角的に紹介してくれる。学術的なことでも対応可能である。

③ 新聞・雑誌閲覧機能

当日の新聞や最新の雑誌などが何種類もあり、見比べ、読み比べ、時間つぶしなど、いろいろな楽しみ方ができる。また、図書館が魅力的なのは、新聞や雑誌等のバックナンバーが揃っているところでもある。マンガなどを置いてあるところもあるので、いろいろ探して見るのも良い。

④ 電子メディア視聴機能

ビデオ、DVD、CD等の電子メディアを視聴して楽しむこともできる。

⑤ パソコン検索機能

図書館にも最新機種ではないがパソコンが置いてあるので、それを利用して図書検索することもできる。

⑥ イベント参加機能

定期的な「読書会」や「ブックハンティング」などのイベントが催される場合もあるので、担当窓口でイベント等の計画、予定等について聞いてみることもできる。

本校図書館は一般教養図書、専門図書、参考図書（辞書・事典・年鑑等）など約770

(6) レポートの書き方

高専では、レポートの提出を求められることが多い。学修単位となっている科目や実験実習など実習系科目では、毎回課題や行った実験や実習の内容を整理し、考察、感想等を書き加えたレポートの提出が求められる。

レポートを書く場合の主な留意点を以下に挙げる。

① 読み手を意識して書くこと

他人に読んでもらうことが前提であるので、読みやすいレポートの作成に心掛け、手書き文字の場合には「丁寧に」書くこと。

② 指導教員の指導に従うこと

表紙をつける場合に表紙の書式、レポート用紙のサイズ、複数枚ある場合のホッチキスの綴じ方など、具体的に指導教員の指導、指示がある場合にはそれを優先し、特にない場合には一般的なレポートの書き方等の常識に従うこと。

③ 盗作はしないこと

他人の書いたものを、あたかも自分が書いたものようにすることはある意味では「犯罪」となります。

※盗作の例

a: 論文・本・新聞等をそのまま写す

b: インターネット上の情報を、そのままコピー&ペーストする

c: 他人（友人・先輩）の書いたレポートをそのまま写す

d: 他人の文章等を末尾などを一部変えるだけで、自分が書いたように見せかける

※自らのレポートの中で、論文・雑誌・新聞等を引用する場合は以下の点に留意すること。

a: 引用箇所を明確に示すこと

b: 出典を明示すること

④ 語尾を統一すること

「である」調、「です・ます」調など、語尾の統一に注意すること。

⑤ 主語と述語を対応させること

文章の基本、文法の基本であるが、いざ書いてみると、主語が抜けている場合が多いことに気づくはずである。

⑥ 文章の作法のこと

長い文章は読みにくいので、適当に句読点をつける、段落をいれるなど工夫が必要である。一つの文章の長さの目安は、3行を超えないことである。

(7) 資格試験

とにかく、「資格」試験に積極的にチャレンジして欲しい。

各学科で推奨される資格試験や各学年でチャレンジして欲しい検定試験等、それぞれ資格担当窓口教員などが案内されるので、当該資格試験等の詳細については当該窓口教員に問い合わせて欲しい。

就職試験を受ける時、自分の作成する履歴書の資格欄に何も書けないのは寂しい気がする。

試験には、いろいろなものがあるが、大別すると以下に分類できる。

① 国家試験等の資格試験

国家試験等の資格試験は、合格者に免許という形で、特定の資格が与えられることに特徴がある。免許は、一般にその行為等が禁止されている事項について、特定の知識、技能等があると判断され、免許が付与されたものについては、当該禁止行為等が法律で許可される。また、判定は「合格」か「不合格」のいずれかで、閾値（基準点あるいは合格最低点）を超えた者は全員合格、超えられなかった者は全員不合格と基準が明確に設定されている。免許の効力は、更新等の手続きを求めるものもあるが、基本的には一度取得した免許は生涯にわたり有効である。

資格試験の種類は、国家試験が1200種類程度、民間の資格試験等も含めれば3000種類以上あると言われている。

就職試験などでは、特定の資格保有を応募条件としている企業、職種がある。

例 海技免許、無線免許、自動車免許など

② 検定試験

数学検定や英語検定、その他の検定試験は、現在の知識レベル、技能レベルの評価指標として用いられるもので、現在では当該検定で問われるレベルの実力があつたという第三者機関（検定実施機関）の証明がなされるだけで、将来にわたってその実力を保証するものでもなければ、特別の免許が与えられるものでもない。

就職試験などでは、自分の能力、実力をアピールするために利用できる。業種によっては、例えば「TOEICスコア450点以上であること」などを応募条件としている場合もある

例 数学検定、英語検定、漢字検定、ワープロ検定、TOEICなど

③ 競争試験

競争試験は、多数の志願者の中から一定の人数を選抜するために行う試験である。入学試験や採用試験に代表される。最低レベルは設定される場合もあるが、合格基準はその時の受検者数等で相対的に変化し、絶対的なものではない。統計的手法によって、合格基準の目安を推定、予測することは可能である。

例 入社試験、国家公務員採用試験など

(8) 英語の学習方法

大学生と高専生の就職後の能力比較で良く言われることが、高専生は「英語能力が低い」ということである。その理由として「高専生は受験勉強をしていないからだ」ということもまことしやかにつぶやかれている。

社会のグローバル化の流れの中で、英語力（含むコミュニケーション能力）のニーズは一層高まっているのが現実である。一つの目安として「高専卒業段階でTOEICスコア400点以上を目指す」ことが挙げられる。商船学科では、水先人試験の受験資格としてTOEICスコア450点以上とか、外航船員に求められる基礎資質としてTOEIC500点以上などが具体的にいわれている。

それでは、英語についてどのような勉強をすれば良いのだろうか。「There is no royal road to learning（勉強に王道なし）」という言葉に代表されるように、地道にコツコツ勉強するしかないのだろうか。

「英語圏では3歳の子供でも英語をペラペラしゃべる」ということは、毎日英語に接していれば自然に身につくという意味の比喩としていわれていることである。英会話習得のためにはリスニング練習は必須であり、とにかく徹底的に聴くことが大切ともいわれている。

英語の学習法については、山ほどのハウツー（How to）本も出ているが、まず単語数を増やす（語彙力を高める：enrich your vocabulary）ことは不可欠である。普段の習慣として、「日本語の英語化」への心掛け、単語、専門用語は「英語」を重視して覚えるということに心掛け、何でもかんでも遊び感覚で英語化するくらいの発想、実践ができれば、自然にフレーズ、用法も身についてくるはずである。

「英語を学習するための心構え5か条」は以下のとおり。

① 目標をきめること

何かしようとするればモチベーションを高めることが大切であり、そのためには具体的な目標を持つことが最適である。海外旅行をする、外航船員になる、留学するなど対象は何でも良いので、勉強する理由と目標を明確にすることが鍵となる。

② 無理のない範囲で毎日こまめに勉強する

「習うより、慣れろ」が大切で、1日1時間で週1日勉強するよりは、1日20分で週3日勉強する方が効果的といわれている。「三日坊主」にならないように「継続は力なり」である。

③ 英語は日本語とは違うという意識を持つ

「日本語を英訳する」よりも、「英語らしい表現を覚える」ことが大切で、使える英語を学ぶためには、英語を徹底して聞く訓練を行うことが良いと言われている。日本語を英訳した「変な英語」を使うのではなく、「英語らしい表現を覚える」ほうが楽しくて、しかも実用的な学習法といえる。

④ 辞書はできるだけ使わない

(9) 数学の学習方法

小学校の時の算数はよくできた。中学校の数学もそんなに苦手ではなかった。ところが高専の数学を習い始めるとまるっきりわからないという学生がいる。ノートはキチンと取っている。問題集もそれなりにこなしている。何故だろうか。

数学は解法が重要なのかという問いかけに、数学ができる人は「数学の問題は応用問題も含めて、基本問題の組み合わせに過ぎないから、その問題で扱われている原理、原則、定義がわかっているれば、それなりに解ける」と説明する。九九くらいは暗記しなければ、不便ではよがないが、典型的な解法を除いて、解法はあまり暗記する必要はなく、むしろ基本的な考え方を知っているかどうか重要である。

とはいっても、実際に数学の問題に接してみると、「演習」が如何に重要かがわかる。高専生は受験勉強がないため、演習、ドリルにかける時間が少ないといわれる。教科書の例題や演習問題など、いろいろな問題を解いてみることは実力を高める良い方法である。ただ、数多くの問題集に当たるより、基本的な問題集一冊を徹底的に繰り返し勉強する方が良いと言われている。

基本となる学習法は、例題や基本公式を確認後、演習問題を解いてみる。これの繰り返しである。

問題を解く場合、心掛けて欲しいことは、「紙」と「鉛筆」である。数学の問題を解くのにパソコンはあまりなじまない。実際に紙に書いて問題を解いてみる手間と勇気が必要である。

わからない部分は質問することを恐れないことも大事である。「直感」とか「ひらめき」という言葉があるが、教えてもらったことがきっかけで、それまでいくら考えても理解できなかった、わからなかった問題が解けるきっかけになることもある。



(10) 読書の習慣

読書時間はどのくらい？携帯電話やスマートフォン、インターネットやゲーム、友達とのおしゃべりで「とても読書時間など確保できない」という学生もいるかも知れない。

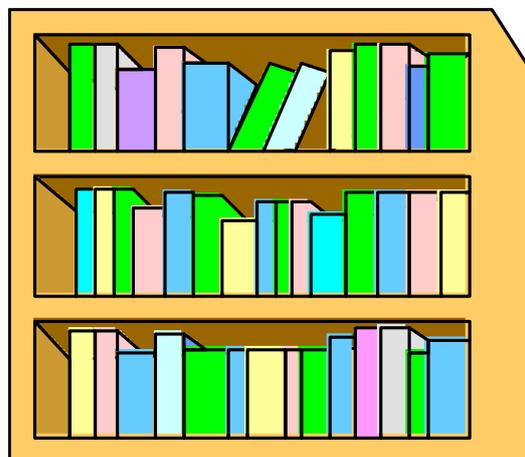
読書をする主なメリットはいろいろ言われているが、いくつか挙げれば以下のとおりである。

- ① 想像力の向上
- ② 疑似体験・感情移入
- ③ 推理力の向上（先読みの力）
- ④ 文章力、構成力の向上
- ⑤ 表現力の向上
- ⑥ 語彙が増える
- ⑦ 集中力の養成
- ⑧ 経験の補完
- ⑨ 心の栄養（知識が増える）
- ⑩ 脳のトレーニング（頭を使う）
- ⑪ 手軽な情報インプットツール
- ⑫ その時間が「たのしい」、「手軽な暇つぶしになる」 など

読書を習慣化するには、「1日に長時間読書する」よりも、「1日にどれだけこまめに本を開くか」が大事である。毎日数分から10分程度でも良いので、とにかく興味ある本を継続して読んでみる。習慣化するためには最初は「意識して」行う必要がある。読書はある面から見れば一種の「癖」であり、一般的に言えばそれは「良い癖」といえるので、それを自分のものとすれば一つ自分の特技、財産が増えることになる。

まず、手軽にカバンに入り、場所を取らない、価格が安い文庫本や新書版などから読み始めてみてはどうだろうか。

是非、読書の習慣を身につけて欲しいものである。



5 情報システムの利用方法について知ろう！！

(1) 情報モラル

情報モラルとは、情報社会を形成し、それに参加し、かつ、それを健全に発展させていく上で、すべての人が身につけておくべき考え方や態度、あるいは必要とされる一般的な行動規範である。

情報が重要な価値を持ち、社会形成の中核を占める現代社会では、インターネットだけでなく、新聞やテレビ、ラジオなどの外部メディアから得た情報を、適切に入手し真偽を見抜き、活用し、理解及び判断する能力である情報リテラシー（Information Literacy）が重要となる。

情報リテラシーとは、情報（Information）と識字（Literacy）の合成語で、情報を自分の目的に活用することができる能力（情報活用能力）のことを意味している。

近年のインターネット社会、情報化社会では、技術がめまぐるしく進化し、いろいろな情報を個人レベルで容易に発信・複製・加工・編集・流通・共有できるため、悪意ばかりでなく、無意識に加害者になり、または、間接的に被害者になるケースも多く出現し、個々のプライバシーを中心とした権利が侵害される事件が社会問題に発展している。

情報社会の秩序を維持し、情報モラルの最低限を規制する考え方から派生した法律として、「不正アクセス禁止法（不正アクセス行為の禁止等に関する法律）」、「著作権法」、「個人情報保護法（個人情報の保護に関する法律）」などがある。

近年、飲食店のアルバイト定員らが悪ふざけでネット投稿する問題が相次ぎ、飲食店が閉鎖、廃業に追い込まれる事例まで出るなど社会問題となった。また、近隣の大学では学生が不適切な画像を投稿し、無期停学の処分を受ける事例も報告されている。

本校でも過去に、掲示板で友達の誹謗中傷を行った事例や他人になりすましてメールを送信した事例などがある。いずれも厚生補導委員会での判断は厳しいものとなり、退学を含む重い処分となった。

ネット上の軽率な投稿で、自分や他人を傷つけ、また、重い代償を払う可能性もあるため、本校情報処理センターでは、情報モラルの注意喚起と高揚を目的として「i-m o r a l」を発行している。

平成25年度に発行した「i-m o r a l」を参考として次ページに示す。

i-moral

平成 25 年 9 月 30 日発行
情報処理教育センター No.1
center@yuge.ac.jp

情報モラル標語コンテスト

昨年度、はじめて情報モラル標語コンテストを実施しました。実行委員会は、応募数171件の標語の中から16件を選抜し、学生と教員による投票によって、各賞を決定しました。平成25年3月8日の全校集会で、各賞を発表し、賞品を贈呈しています。今年度もコンテストの開催を計画していますので、学校生活の中で大切と思う情報モラルを考えてみてください。

■グランプリ

情報工学科2年 越智 舞介

心有り その文字列の 向こう側

■準グランプリ

商船学科3年 横山 あゆみ

そのボタン 押したら 後悔しませんか？

■学校長賞

情報工学科2年 伊藤 宏崇

なにげなく 書き込む文字に 人は病む

ネット投稿

あなたは大丈夫?!

最近、画像投稿による事件がテレビや新聞で多く取り上げられています。このような事件の問題は、投稿者が軽い気持ちやノリで送信(投稿)ボタンを押していることです。投稿者は、事件が起こった後に、その重大性に気づきます。タップ(クリック)一つでできるネット投稿は、内容によっては友達、学校、さらに社会に影響を及ぼすことを忘れてください。最近、近隣の大学で起こった事件とその対応を紹介します。

不適切ツイートで停学

福山平成大 尻の露出写真投稿
6人を処分

福山市御幸町の福山一岡六にまで、18、19、20、21、22、23、24、25、26、27、28、29、30、31、32、33、34、35、36、37、38、39、40、41、42、43、44、45、46、47、48、49、50、51、52、53、54、55、56、57、58、59、60、61、62、63、64、65、66、67、68、69、70、71、72、73、74、75、76、77、78、79、80、81、82、83、84、85、86、87、88、89、90、91、92、93、94、95、96、97、98、99、100、101、102、103、104、105、106、107、108、109、110、111、112、113、114、115、116、117、118、119、120、121、122、123、124、125、126、127、128、129、130、131、132、133、134、135、136、137、138、139、140、141、142、143、144、145、146、147、148、149、150、151、152、153、154、155、156、157、158、159、160、161、162、163、164、165、166、167、168、169、170、171、172、173、174、175、176、177、178、179、180、181、182、183、184、185、186、187、188、189、190、191、192、193、194、195、196、197、198、199、200、201、202、203、204、205、206、207、208、209、210、211、212、213、214、215、216、217、218、219、220、221、222、223、224、225、226、227、228、229、230、231、232、233、234、235、236、237、238、239、240、241、242、243、244、245、246、247、248、249、250、251、252、253、254、255、256、257、258、259、260、261、262、263、264、265、266、267、268、269、270、271、272、273、274、275、276、277、278、279、280、281、282、283、284、285、286、287、288、289、290、291、292、293、294、295、296、297、298、299、300、301、302、303、304、305、306、307、308、309、310、311、312、313、314、315、316、317、318、319、320、321、322、323、324、325、326、327、328、329、330、331、332、333、334、335、336、337、338、339、340、341、342、343、344、345、346、347、348、349、350、351、352、353、354、355、356、357、358、359、360、361、362、363、364、365、366、367、368、369、370、371、372、373、374、375、376、377、378、379、380、381、382、383、384、385、386、387、388、389、390、391、392、393、394、395、396、397、398、399、400、401、402、403、404、405、406、407、408、409、410、411、412、413、414、415、416、417、418、419、420、421、422、423、424、425、426、427、428、429、430、431、432、433、434、435、436、437、438、439、440、441、442、443、444、445、446、447、448、449、450、451、452、453、454、455、456、457、458、459、460、461、462、463、464、465、466、467、468、469、470、471、472、473、474、475、476、477、478、479、480、481、482、483、484、485、486、487、488、489、490、491、492、493、494、495、496、497、498、499、500、501、502、503、504、505、506、507、508、509、510、511、512、513、514、515、516、517、518、519、520、521、522、523、524、525、526、527、528、529、530、531、532、533、534、535、536、537、538、539、540、541、542、543、544、545、546、547、548、549、550、551、552、553、554、555、556、557、558、559、560、561、562、563、564、565、566、567、568、569、570、571、572、573、574、575、576、577、578、579、580、581、582、583、584、585、586、587、588、589、590、591、592、593、594、595、596、597、598、599、600、601、602、603、604、605、606、607、608、609、610、611、612、613、614、615、616、617、618、619、620、621、622、623、624、625、626、627、628、629、630、631、632、633、634、635、636、637、638、639、640、641、642、643、644、645、646、647、648、649、650、651、652、653、654、655、656、657、658、659、660、661、662、663、664、665、666、667、668、669、670、671、672、673、674、675、676、677、678、679、680、681、682、683、684、685、686、687、688、689、690、691、692、693、694、695、696、697、698、699、700、701、702、703、704、705、706、707、708、709、710、711、712、713、714、715、716、717、718、719、720、721、722、723、724、725、726、727、728、729、730、731、732、733、734、735、736、737、738、739、740、741、742、743、744、745、746、747、748、749、750、751、752、753、754、755、756、757、758、759、760、761、762、763、764、765、766、767、768、769、770、771、772、773、774、775、776、777、778、779、780、781、782、783、784、785、786、787、788、789、790、791、792、793、794、795、796、797、798、799、800、801、802、803、804、805、806、807、808、809、810、811、812、813、814、815、816、817、818、819、820、821、822、823、824、825、826、827、828、829、830、831、832、833、834、835、836、837、838、839、840、841、842、843、844、845、846、847、848、849、850、851、852、853、854、855、856、857、858、859、860、861、862、863、864、865、866、867、868、869、870、871、872、873、874、875、876、877、878、879、880、881、882、883、884、885、886、887、888、889、890、891、892、893、894、895、896、897、898、899、900、901、902、903、904、905、906、907、908、909、910、911、912、913、914、915、916、917、918、919、920、921、922、923、924、925、926、927、928、929、930、931、932、933、934、935、936、937、938、939、940、941、942、943、944、945、946、947、948、949、950、951、952、953、954、955、956、957、958、959、960、961、962、963、964、965、966、967、968、969、970、971、972、973、974、975、976、977、978、979、980、981、982、983、984、985、986、987、988、989、990、991、992、993、994、995、996、997、998、999、1000、1001、1002、1003、1004、1005、1006、1007、1008、1009、1010、1011、1012、1013、1014、1015、1016、1017、1018、1019、1020、1021、1022、1023、1024、1025、1026、1027、1028、1029、1030、1031、1032、1033、1034、1035、1036、1037、1038、1039、1040、1041、1042、1043、1044、1045、1046、1047、1048、1049、1050、1051、1052、1053、1054、1055、1056、1057、1058、1059、1060、1061、1062、1063、1064、1065、1066、1067、1068、1069、1070、1071、1072、1073、1074、1075、1076、1077、1078、1079、1080、1081、1082、1083、1084、1085、1086、1087、1088、1089、1090、1091、1092、1093、1094、1095、1096、1097、1098、1099、1100、1101、1102、1103、1104、1105、1106、1107、1108、1109、1110、1111、1112、1113、1114、1115、1116、1117、1118、1119、1120、1121、1122、1123、1124、1125、1126、1127、1128、1129、1130、1131、1132、1133、1134、1135、1136、1137、1138、1139、1140、1141、1142、1143、1144、1145、1146、1147、1148、1149、1150、1151、1152、1153、1154、1155、1156、1157、1158、1159、1160、1161、1162、1163、1164、1165、1166、1167、1168、1169、1170、1171、1172、1173、1174、1175、1176、1177、1178、1179、1180、1181、1182、1183、1184、1185、1186、1187、1188、1189、1190、1191、1192、1193、1194、1195、1196、1197、1198、1199、1200、1201、1202、1203、1204、1205、1206、1207、1208、1209、1210、1211、1212、1213、1214、1215、1216、1217、1218、1219、1220、1221、1222、1223、1224、1225、1226、1227、1228、1229、1230、1231、1232、1233、1234、1235、1236、1237、1238、1239、1240、1241、1242、1243、1244、1245、1246、1247、1248、1249、1250、1251、1252、1253、1254、1255、1256、1257、1258、1259、1260、1261、1262、1263、1264、1265、1266、1267、1268、1269、1270、1271、1272、1273、1274、1275、1276、1277、1278、1279、1280、1281、1282、1283、1284、1285、1286、1287、1288、1289、1290、1291、1292、1293、1294、1295、1296、1297、1298、1299、1300、1301、1302、1303、1304、1305、1306、1307、1308、1309、1310、1311、1312、1313、1314、1315、1316、1317、1318、1319、1320、1321、1322、1323、1324、1325、1326、1327、1328、1329、1330、1331、1332、1333、1334、1335、1336、1337、1338、1339、1340、1341、1342、1343、1344、1345、1346、1347、1348、1349、1350、1351、1352、1353、1354、1355、1356、1357、1358、1359、1360、1361、1362、1363、1364、1365、1366、1367、1368、1369、1370、1371、1372、1373、1374、1375、1376、1377、1378、1379、1380、1381、1382、1383、1384、1385、1386、1387、1388、1389、1390、1391、1392、1393、1394、1395、1396、1397、1398、1399、1400、1401、1402、1403、1404、1405、1406、1407、1408、1409、1410、1411、1412、1413、1414、1415、1416、1417、1418、1419、1420、1421、1422、1423、1424、1425、1426、1427、1428、1429、1430、1431、1432、1433、1434、1435、1436、1437、1438、1439、1440、1441、1442、1443、1444、1445、1446、1447、1448、1449、1450、1451、1452、1453、1454、1455、1456、1457、1458、1459、1460、1461、1462、1463、1464、1465、1466、1467、1468、1469、1470、1471、1472、1473、1474、1475、1476、1477、1478、1479、1480、1481、1482、1483、1484、1485、1486、1487、1488、1489、1490、1491、1492、1493、1494、1495、1496、1497、1498、1499、1500、1501、1502、1503、1504、1505、1506、1507、1508、1509、1510、1511、1512、1513、1514、1515、1516、1517、1518、1519、1520、1521、1522、1523、1524、1525、1526、1527、1528、1529、1530、1531、1532、1533、1534、1535、1536、1537、1538、1539、1540、1541、1542、1543、1544、1545、1546、1547、1548、1549、1550、1551、1552、1553、1554、1555、1556、1557、1558、1559、1560、1561、1562、1563、1564、1565、1566、1567、1568、1569、1570、1571、1572、1573、1574、1575、1576、1577、1578、1579、1580、1581、1582、1583、1584、1585、1586、1587、1588、1589、1590、1591、1592、1593、1594、1595、1596、1597、1598、1599、1600、1601、1602、1603、1604、1605、1606、1607、1608、1609、1610、1611、1612、1613、1614、1615、1616、1617、1618、1619、1620、1621、1622、1623、1624、1625、1626、1627、1628、1629、1630、1631、1632、1633、1634、1635、1636、1637、1638、1639、1640、1641、1642、1643、1644、1645、1646、1647、1648、1649、1650、1651、1652、1653、1654、1655、1656、1657、1658、1659、1660、1661、1662、1663、1664、1665、1666、1667、1668、1669、1670、1671、1672、1673、1674、1675、1676、1677、1678、1679、1680、1681、1682、1683、1684、1685、1686、1687、1688、1689、1690、1691、1692、1693、1694、1695、1696、1697、1698、1699、1700、1701、1702、1703、1704、1705、1706、1707、1708、1709、1710、1711、1712、1713、1714、1715、1716、1717、1718、1719、1720、1721、1722、1723、1724、1725、1726、1727、1728、1729、1730、1731、1732、1733、1734、1735、1736、1737、1738、1739、1740、1741、1742、1743、1744、1745、1746、1747、1748、1749、1750、1751、1752、1753、1754、1755、1756、1757、1758、1759、1760、1761、1762、1763、1764、1765、1766、1767、1768、1769、1770、1771、1772、1773、1774、1775、1776、1777、1778、1779、1780、1781、1782、1783、1784、1785、1786、1787、1788、1789、1790、1791、1792、1793、1794、1795、1796、1797、1798、1799、1800、1801、1802、1803、1804、1805、1806、1807、1808、1809、1810、1811、1812、1813、1814、1815、1816、1817、1818、1819、1820、1821、1822、1823、1824、1825、1826、1827、1828、1829、1830、1831、1832、1833、1834、1835、1836、1837、1838、1839、1840、1841、1842、1843、1844、1845、1846、1847、1848、1849、1850、1851、1852、1853、1854、1855、1856、1857、1858、1859、1860、1861、1862、1863、1864、1865、1866、1867、1868、1869、1870、1871、1872、1873、1874、1875、1876、1877、1878、1879、1880、1881、1882、1883、1884、1885、1886、1887、1888、1889、1890、1891、1892、1893、1894、1895、1896、1897、1898、1899、1900、1901、1902、1903、1904、1905、1906、1907、1908、1909、1910、1911、1912、1913、1914、1915、1916、1917、1918、1919、1920、1921、1922、1923、1924、1925、1926、1927、1928、1929、1930、1931、1932、1933、1934、1935、1936、1937、1938、1939、1940、1941、1942、1943、1944、1945、1946、1947、1948、1949、1950、1951、1952、1953、1954、1955、1956、1957、1958、1959、1960、1961、1962、1963、1964、1965、1966、1967、1968、1969、1970、1971、1972、1973、1974、1975、1976、1977、1978、1979、1980、1981、1982、1983、1984、1985、1986、1987、1988、1989、1990、1991、1992、1993、1994、1995、1996、1997、1998、1999、2000、2001、2002、2003、2004、2005、2006、2007、2008、2009、2010、2011、2012、2013、2014、2015、2016、2017、2018、2019、2020、2021、2022、2023、2024、2025、2026、2027、2028、2029、2030、2031、2032、2033、2034、2035、2036、2037、2038、2039、2040、2041、2042、2043、2044、2045、2046、2047、2048、2049、2050、2051、2052、2053、2054、2055、2056、2057、2058、2059、2060、2061、2062、2063、2064、2065、2066、2067、2068、2069、2070、2071、2072、2073、2074、2075、2076、2077、2078、2079、2080、2081、2082、2083、2084、2085、2086、2087、2088、2089、2090、2091、2092、2093、2094、2095、2096、2097、2098、2099、2100、2101、2102、2103、2104、2105、2106、2107、2108、2109、2110、2111、2112、2113、2114、2115、2116、2117、2118、2119、2120、2121、2122、2123、2124、2125、2126、2127、2128、2129、2130、2131、2132、2133、2134、2135、2136、2137、2138、2139、2140、2141、2142、2143、2144、2145、2146、2147、2148、2149、2150、2151、2152、2153、2154、2155、2156、2157、2158、2159、2160、2161、2162、2163、2164、2165、2166、2167、2168、2169、2170、2171、2172、2173、2174、2175、2176、2177、2178、2179、2180、2181、2182、2183、2184、2185、2186、2187、2188、2189、2190、2191、2192、2193、2194、2195、2196、2197、2198、2199、2200、2201、2202、2203、2204、2205、2206、2207、2208、2209、2210、2211、2212、2213、2214、2215、2216、2217、2218、2219、2220、2221、2222、2223、2224、2225、2226、2227、2228、2229、2230、2231、2232、2233、2234、2235、2236、2237、2238、2239、2240、2241、2242、2243、2244、2245、2246、2247、2248、2249、2250、2251、2252、2253、2254、2255、2256、2257、2258、2259、2260、2261、2262、2263、2264、2265、2266、2267、2268、2269、2270、2271、2272、2273、2274、2275、2276、2277、2278、2279、2280、2281、2282、2283、2284、2285、2286、2287、2288、2289、2290、2291、2292、2293、2294、2295、2296、2297、2298、2299、2300、2301、2302、2303、2304、2305、2306、2307、2308、2309、2310、2311、2312、2313、2314、2315、2316、2317、2318、2319、2320、2321、2322、2323、2324、2325、2326、2327、2328、2329、2330、2331、2332、2333、2334、2335、2336、2337、2338、2339、2340、2341、2342、2343、2344、2345、2346、2347、2348、2349、2350、2351、2352、2353、2354、2355、2356、2357、2358、2359、2360、2361、2362、2363、2364、2365、2366、2367、2368、2369、2370、2371、2372、2373、2374、2375、2376、2377、2378、2379、2380、2381、2382、2383、2384、2385、2386、2387、2388、2389、2390、2391、2392、2393、2394、2395、2396、2397、2398、2399、2400、2401、2402、2403、2404、2405、2406、2407、2408、2409、2410、2411、2412、2413、2414、2415、2416、2417、2418、2419、2420、2421、2422、2423、2424、2425、2426、2427、2428、2429、2430、2431、2432、2433、2434、2435、2436、2437、2438、2439、2440、2441、2442、2443、2444、2445、2446、2447、2448、2449、2450、2451、2452、2453、2454、2455、2456、2457、2458、2459、2460、2461、2462、2463、2464、2465、2466、2467、2468、2469、2470、2471、2472、2473、2474、2475、2476、2477、2478、2479、2480、2481、2482、2483、2484、2485、2486、2487、2488、2489、2490、2491、2492、2493、2494、2495、2496、2497、2498、2499、2500、2501、2502、2503、2504、2505、2506、2

(2) 校内ネットワークの利用方法

校内は「無線LAN」が整備され、パソコン、タブレット端末、スマートフォンなどの利用も可能となっている。

「無線LAN」に接続してネットワークを利用するには、以下の手順が必要となる。

- ① 情報処理教育センターで、ユーザ名を発行してもらい、パスワードを登録する
- ② ネットワーク等を利用する場合、当該ユーザ名とパスワードが要求されるので、それを入力する
- ③ スマートフォンなどの場合、接続が切れるたびに認証が要求される

※Android、iPhone 等の場合、Smart Sign On FEREC というアプリが提供されているので、当該アプリの利用を推奨している

また、商船学科・電子機械工学科・情報工学科ではマイクロソフト株式会社とプログラム開発用ツールの教育目的の利用についてMSDN アカデミックアライアンス契約を取り交わしている。これにより、商船学科・電子機械工学科・情報工学科において受講する学生はプログラム開発にかかわるマイクロソフト製品を無償で利用することができる。商船学科・電子機械工学科・情報工学科・情報処理教育センターは最先端の教育環境を常に提供しているので、詳しく知りたい学生は、情報処理教育センターまで問い合わせること。



6 学生生活で悩みごとができれば・・・

(1) 学生相談室とカウンセリング（相談の体制など）

本校には、学生生活で生じるさまざまな問題について相談活動を行い、学生自身が問題解決できるように適切な助言・援助を行うため、「学生相談室」が設けられている。

学生相談室が具体的に行う内容は以下のとおりである。

- ① 学生の修学、進路上の相談に関する助言及び援助
- ② 学生の精神衛生上の相談に関する助言及び援助
- ③ その他学生相談に関する業務

学生相談室の構成は、以下のとおり。

- ① 室長
- ② 相談員（各学科から1名）
- ③ カウンセラー（週1回の非常勤、臨床心理士）
- ④ 補助相談員（本校保健室の看護師）

学生相談室の開設場所、開設時間は以下のとおり。

■開設場所 図書館2階

■開設時間 月曜～金曜日 8時30分～17時00分

■利用方法

直接、相談室に行く

保健室で予約する

カウンセラーにメールで予約する（Mail：counsellor@office.yuge.ac.jp）

■学生相談室Q&A

Q：相談室に一人では行きにくいのですが…………。

A：一人でなければいけないということはありません。グループでもOKです。

Q：相談した内容は外部に漏れませんか？

A：個人のプライバシーを守ることは相談室の鉄則です。安心して相談して下さい。

Q：専門の相談員はいるのですか？

A：非常勤の臨床心理士がいます。毎週水・木曜日の12時から17時まで相談室に待機しています。また、相談の内容の必要に応じて相談室員を通じて外部の相談機関、医療機関などを紹介することができます。

(2) 進路への悩み、進路変更など

修学上の悩みごとは、「学生相談室」で相談することも可能であるが、担任に相談することも大切である。

担任は、教務主事や学生主事、学科長等とも相談しながら、問題解決への糸口を見つけてくれる。

高専は、修業年限5年（商船学科については5年半）の一貫教育であるので、大学や専門学校等の入試は基本的にない。そのため、大学入試に対応するためのカリキュラム構成は取られていない。高専から別の高専への転学システムは整備されている高専もあるが、一般的ではまだない。他高専にかわる方法は現時点では、各高専の入試を再チャレンジするか、時期を待って各高専で実施している編入学試験にチャレンジすることが多い。

転科（同一学校の学科をかかわること）については、本校にも制度は整備されている（「弓削商船高等専門学校転科に関する規則」参照）。転科の受入れ学年は、商船学科については2年次までとし、電子機械工学科及び情報工学科については4年次までである。

高専や高校は、入学試験によって選抜されて入学が認められているので、基本的に「やむを得ない事由」がない限り、他の高専や全日制課程の同一学年への転学は難しい。単位制、通信制の高校については、比較的制約の少ないところもあるが、具体的には十分に担任、保護者を交えて相談、協議となる。

修学上の悩みは一人で抱えないで積極的に相談してみると、あんがい簡単に問題解決のヒントにつながる可能性も高いので、担任を含め、それぞれの相談窓口を効率的、機能的に活用すべきである。



(3) 「いじめ」、「ハラスメント (いやがらせ)」など

「いじめ」とは、学生に対して、一定の人的関係にある他の学生が行う心理的または物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む）であって、当該行為の対象となった学生が心身の苦痛を感じているものをいう（「弓削商船高等専門学校いじめ防止基本方針」参照）。

学生は「いじめ」を行ってはならない。「いじめ」は人間として絶対に許されないという雰囲気を学校全体で醸成することが大切である。一方では、部活動や寮生活などの生活体験を通じて社会性を育み、他人の気持ちを共感的に理解できる情操を養い、自分の存在と他人の存在を等しく認め、お互いの人格を尊重する態度を養う姿勢や努力も重要である。また、インターンシップやボランティア活動などを通じて、自分の言動が相手や周りにもどのような影響を与えるかを判断して行動できる力を養っていくことも不可欠と考える。

「いじめ」は、いじめをする学生（加害者）といじめを受ける学生（被害者）という単純な構図ばかりでなく、それをはやし立てたり面白がったりする「観衆的学生」や存在に気づいていながら無関係を装う「傍観者的学生」も現実にいる。後者については、積極的に「いじめ」を抑止する仲裁をしたり、担任等の誰かに早く知らせる勇気を持って欲しい。「いじめ」の特効薬はなかなかないが、不幸にして「いじめ」があった場合は、「早期発見・早期対応」が被害を軽くする良策であることをお互いに認識して、防止に努めたいものである。

最近、「ハラスメント」という言葉もよく使われている。嫌がらせや相手を不快にさせる言動等のことである。学生にとって「ハラスメント」が問題になるのは、そのために修学上の環境が害されたり、修学上の不利益を受けることである。

学校での「ハラスメント」は学生間ばかりでなく、教職員との関係でも生じる場合がある。

本校が定めている「ハラスメント」の種類は、以下のとおりである。

①セクシュアル・ハラスメント

相手を不快にさせる性的及び性差別的な言動をいうこと。

②アカデミック・ハラスメント

教育上、研究上又は修学上の権力関係又は上下関係等を利用して行う嫌がらせや不適切で不当な言動をいうこと。

③ パワー・ハラスメント

就労上の権力関係又は上下関係を利用して行う嫌がらせや不適切で不当な言動をいうこと。

④その他のハラスメント

上に記載したものに準じる嫌がらせや不当な言動等をいうこと。

「ハラスメント」に対する苦情については、相談窓口として、学生主事や学生相談室長、看護師、女性教員で指名された苦情相談員などが当たることとなっている。

7 その他、修学上の参考となれば・・・

(1) 携帯電話のこと

本校の学生は通学圏外の遠隔地出身者も多く、保護者との連絡用に携帯電話やスマートフォン（以下「携帯電話等」という）を保有しているものも少なくない。また、休講や時間割の変更など、学生に必要な情報伝達もホームページを通じて行われることが多いので、担任や友人との情報交換（連絡網）も含めて、便利に、機能的に「携帯電話等」を活用できることは否定できない。ただ、授業や試験では必要ないので、「携帯電話等」の使用、持ち込みを禁止している。

授業中に「携帯電話等」の使用が見つければ、その場で没収の上、保護者宛に郵送されることになる。また、使用していた学生は「指導連絡票」の対象となり、不要な注意処分を受けることとなる。

「携帯中毒」（携帯電話依存症：携帯電話が手元に無かったり、なんらかの理由（圏外になった、入浴中である、バッテリーが切れた、充電中であるなど）によって携帯電話が使用できない状態になると精神的に不安定になったりパニックになったりするというもの）やLINE等を含むSNS（Social Networking Service）上でのトラブルなど、「携帯電話等」に関連する社会問題も少なくない。

使用を否定するものではないが、T（時）・P（場所）・O（場合）を考えた、適切な使用を期待したい。

(2) 5つの「S」のこと

5つの「S」とは、以下のローマ字表記の頭文字のことを言う。

- ① 整理 (Seiri) : いらぬものを捨てる
- ② 整頓 (Seiton) : 決められた物を決められた場所に置き、いつでも取り出せる状態にしておく
- ③ 清掃 (Seisou) : 常に掃除をして、身の回りを清潔に保つ
- ④ 清潔 (Seiketsu) : 整理・整頓・清掃を維持する
- ⑤ 躰 (Shitsuke) : 決められたルール・手順を正しく守る習慣をつける

5 Sは、主に職場環境の維持・改善のためのスローガンとして用いられているが、教育環境の維持・改善のスローガンとしても当てはめることができる。

5 Sの直接的な効果として、学生の美化意識の向上やモラルの向上などが挙げられる。また、間接的な効果として、授業の効率化、教室の要整備部分の顕在化、教育環境の満足度の向上などが挙げられる。

5 Sは、日本で生まれた概念であるが、諸外国にも波及し「ファイブ・エス (Five S)」と呼ばれている。

(3) 4つの「ザイ」のこと

ビジネスの世界では、マン・マネージメントの分野の人に関する分類で、必ずと言って良いほど4つの「ザイ」のことが出てくる。

そこで説明されている4つの「ザイ」とは、「材」、「罪」、「在」、「財」の漢字が当てられ、頭に「人」をつけて以下のとおり分類されている。

- ① 人材・・・実績はないけど成長が期待できる人。普通の人。
 - ② 人罪・・・実績もないし、成長も期待できない人。企業的にはお荷物。
 - ③ 人在・・・実績はあるけど、それ以上の成長が見込めない人。
 - ④ 人財・・・実績もあり、成長が期待できる人。企業的に欲しがられる人。
- 企業内における「ジンザイ」マトリックスの例を以下に示す。

↑ 将 来 性	人材	人財
	人罪	人在
	実績 →	

本校に入学してきた学生は、全員等しく「人材」である。これから修業年限という与えられた期間を通して、本校の教育システムの中で育成し、磨きをかけ、本校の教育方針に唱う「人財」として多くの学生が成長してくれることを期待している。

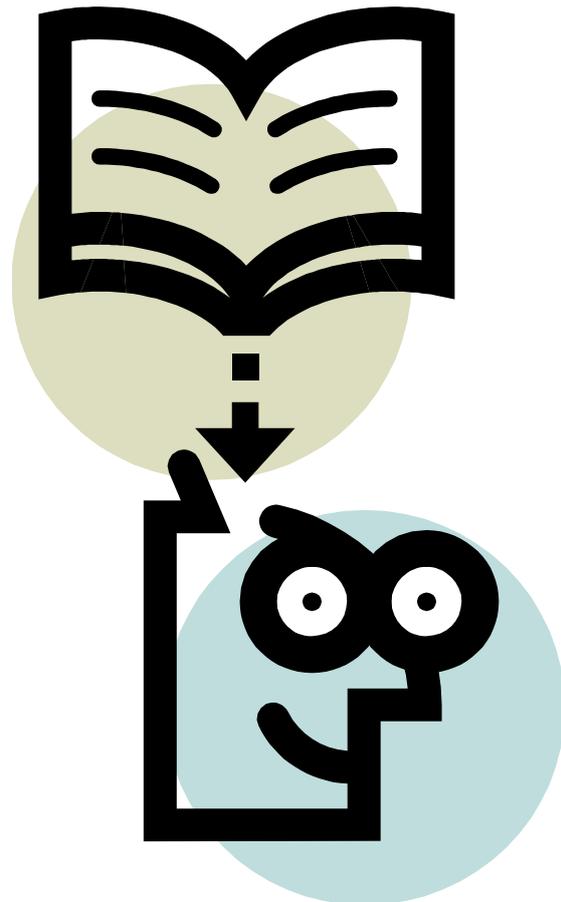
(4) モチベーションのこと

モチベーション (Motivation) とは、人が一定の方向や目標に向かって行動し、それを維持する働きを意味し、「動機づけ」・「やる気」とも言われている。

成長期の学生は、モチベーションを持つと「3ヶ月」で変わると言われている。これは、それほど学生の成長速度は目を見張るものがあるという比喻である。その原動力となるものが「モチベーション」である。

「資格試験にチャレンジする」、「クラブ活動に頑張ってみる」など、その方向性は多種多様であって良い。本気で頑張ってみると、1日1日は何の成果も見られないようであるが、3ヶ月程度の期間を比較してみると、「これが同じ学生か」と目を疑うばかりに成長している。

そのような中にある自分の立ち位置を忘れずに、日々努力して欲しい。



編集後記

初年次教育支援室が発足して、まる3年が過ぎようとしている。

試行錯誤で、支援の内容そのものもしっかり軌道にのっているわけではない。

そんな中で、本冊子の意見が出て、何とか年度内に形ばかりのものを作り上げることができた。

内容については、今後バージョンを上げながら、よりよいものに充実させていくことになるが、とりあえず、ここに土台となるべき初版を完成できたことは一歩前進である。

年々、初年次教育の重要性を意識せざるを得ないし、その必要性を感じる。

これぞ修学支援サービスの決定版というものはないが、年数を重ねていくその経験と歴史の中に良い解答が見つかるかも知れない。

本冊子が初年次教育支援サービスの中でどのような役割を持つのか、未知数のところもある。

結果を恐れず前向きに取り組んでいく過程の中で生まれた本冊子を、これからどのように活用していくかも初年次教育支援室の活動の一つとして、成果につながるべく努力したい。

最後に、学生諸君が、はやく本校の教育（高専教育）になじみ、意欲的に、自ら進んで学修し、その成果を上げ、自分の夢に一步でも近づいてくれることを期待し、その支援の一助に本冊子がなれば望外の幸せである。

（執筆責任者 多田光男）

改訂版について

初版は学内コピー製本だったが、高専機構の「企業技術者活用プログラム」経費支援を受けて、改訂版では印刷製本を行うことができた。それに併せて、各項目の修正や追加、メモ欄を設けるなど、必要な改訂を行っている。今後使用、活用される学生諸君の意見等も参考に、一層より良いものにバージョンアップを図っていきたい。（執筆責任者）

付記

平成 26 年 3 月 20 日 初版発行

平成 27 年 3 月 1 日 改訂第 1 版

